



vol.2



WEB



Facebook

発行：佐賀県農産課

<http://www.pref.saga.lg.jp/list00069.html>



とまと屋ファーム江島
代表 江島政樹さん

トマトのトップブランドをけん引する、若きリーダー「おいしさ」という「幸せ」を「光樹とまと」でつなぎたい



東京の青果市場で トップクラスの価格で取引

国内最大の青果卸会社東京青果株式会社(東京都大田区)でトップクラスの単価を誇るトマトが、佐賀市川副町で栽培されています。「太陽の光をいっぱい浴びた光り輝くようなトマトの樹」という意味を込めて名付けられた「光樹とまと」です。全国から東京へ集まる数多くのトマトのなかでも、「糖度、酸味、食味のバランスがひときわ良好」という高い評価を受け、トマト全体の平均価格を5割以上上回る市場価格で取引されています。

栽培しているのは「川副光樹とまと部会」の12戸。その一員として、トマトづくりに情熱を燃やしているのが江島政樹さん(37歳)です。20代で佐賀県農業青年クラブ会長を務めるなど、佐賀農業をひっぱり手リーダーとして、おいしさをとことん追求した「光樹とまと」を栽培しています。目指しているのは、幸せにつながるトマトづくり。「食べた人だけでなく、作る人も売る人も、『光樹とまと』を通じて幸せにつながる大切だと思っています」。

裏面へ続く・・・



佐賀県農業大学校オープンキャンパス開催！

平成29年8月27日(日)10時から佐賀市川副町にある佐賀県農業大学校(佐賀市川副町南里1088)で、オープンキャンパスが開催されます。学校紹介や専攻実習体験のほか、卒業生との交流会も開催されます。事前に申し込みが必要です。

問い合わせ先、申し込み先：佐賀県農業大学校養成部 0952-45-2144



どんな仕事も大変、ならばやりがいのある農業を

江島さんは、30年前に誕生した「光樹とまと」の栽培農家に生まれました。しかし、当初は就農の道を選びませんでした。「両親ががんばっている姿を見て、自分には農業はできないだろう、と思っていました」。そのため、県立佐賀商業高校を卒業後、一般企業に就職します。働いていく中「どんな仕事でも実は大変なんだと気づかされました。それならば、自分で考えたことを自由にやれて、やりがいのある農業をがんばってみよう」と決意。佐賀に戻って、「光樹とまと」栽培に取り組むことにしたのです。

それまで農業の勉強をしていなかった江島さんは、最先端の農業技術を学ぼうと、22歳のとき、1年間の海外農業研修に参加。農業先進地であるスイスで、野菜や麦などの栽培技術、農業経営を学びました。今でも刺激を受けあった研修生とは、さまざまな相談をしよう仲間になっているそうです。

帰国後、江島さんは父である利英さんから、ハウスを1棟任されます。「これで生活をしなさい、と言われてたんです。普通は一緒にやりましょう、だと思っんですけど」。そのことは、「自分のハウス」に対する責任感や、栽培方法などを工夫することの楽しさを教えてくれたといいます。その後、任されるハウスの数は少しずつ増え、経営移譲した現在は8棟のハウスを管理しています。「特別苦労は感じませんでした。それまでと同じように、自分で考えてやっていけばいい、と。今も父にはとても感謝しています」。

もっと詳しいお話はwebサイトをチェック！



江島さんが参加しているイベント「麦秋カフェ」の様子



アンケートにお答えください！

「SAGA アグリ之星」は、サイトとフリーペーパーで、次世代の佐賀農業を担う人材をご紹介します。今回のインタビューに関する感想や、佐賀の農業への思い、また、フリーペーパーやサイトに掲載する佐賀の農業情報や、農業に従事している人について、どんなことを知りたいかなどのご要望をお寄せください。

アンケートは、「SAGA アグリ之星」サイトで、スマートフォンからもお答えいただけます。右側のQRコードからアクセスしてください！



SAGAアグリ之星
アンケートページ